

【小学校 ESD・外国語科における事例】

私たちのまちの良さを発信しよう（第6学年）  
～SDGs目標11「住み続けられるまちづくりを」を題材に～

奈良教育大学 英語教育専修4回生 谷垣 徹

1. 単元名

「私たちのまちの良さを発信しよう」

～SDGs目標11「住み続けられるまちづくりを」を題材に～ 小学校第6学年

2. 単元の目標

- 地域にどのような施設があるのか、また欲しいのか、さらにその地域の良さなどについて、簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を読んで意味が分かったり、それらについて聞いたり言ったりすることができる。 (知識・技能)
- 誰もが暮らしやすい、誰もが住み続けられるまちについて考え、それらについて、英語で書かれた例を参考に簡単な語句や基本的な表現を用いて書いたりする。 (思考・判断・表現)
- 誰もが住みやすい、住み続けられるまちについて、自分の意見を持って、積極的に話し合ったり、自分たちで考えた誰もが暮らしやすい、誰もが住み続けられるまちについて、積極的に英語で伝えたりする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

グローバル化が急速に進む現代社会において、国際共通語としての英語でコミュニケーションを図る力は必要不可欠だと言われている。しかし、今後ますますグローバル化していく社会で求められるグローバル人材とは、単に英語でコミュニケーションを取れる能力ではない。グローバル人材として求められる大きな要素の一つとして、地域の一員として自分の住む地域を知り、愛着を持つことが挙げられる。

また、学習指導要領が改訂され、新設されたその前文において「一人一人の児童が、(略)、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と明記されている。また、第1章総則においては「持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動(略)の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしなが、教育活動の充実を図るものとする。」と示され、学校教育全体で持続可能な社会の作り手を育成していくことの重要性が確認された。もちろん外国語科や、外国語活動も例外ではなく、持続可能な社会の作り手の育成を目指した教育活動の充実を図る必要がある。

これを受けて本単元では、自分たちの住む地域について、その良さや願いを考えることを通して、地域に対する愛着を育て、また「誰もが暮らしやすい」「誰もが住み続けられる」まちづく

りについて考えることで、持続可能な社会の作り手としての当事者意識を育てることを目指す。

また、本単元では地域の良さや願いについて考えたことを英語で表現し、発信する活動を通して、考えたことを英語で表現できることの喜びや、積極的にコミュニケーションをとる態度を育てることを目指す。本単元で扱う主要な表現は、地域にあるもの、ないものを表す **We have ～. / We don't have ～.** という表現である。また、図書館や公園、病院、駅など、地域にある様々な施設の英語の語句も扱う。これらの語句や表現は、以降の学習とも大きな関連を持つ、コミュニケーションの素地となるべきものである。

## (2) 児童観 (略)

## (3) 指導観

様々な地域の説明を英語で聞く活動を通して、地域の多様性に気付かせると同時に、自分たちの住む地域を歩き、考えることで、自分たちの住む町への愛着を育てたい。また自分たちの住む地域を歩いたり、そこでの気付きを話し合ったりする活動を通して、その地域の良さについて考えることはもちろん、地域が抱える課題や地域に住む人々の願いにも目を向け、誰もが住みやすい、住み続けられるまちについても考えさせ、その地域に暮らす住民に一員としての当事者意識を持たせたい。

また、本単元は外国語科における ESD 実践として、国語科や生活科、社会科など、他教科とのつながりを意識して指導したい。一つ目の国語科との連携については、児童は「町の幸福論ーコミュニティデザインを考えるー」の学習において、児童は地域の課題を解決するためには、①地域の住民たちが主体的にまちづくりに取り組むこと、②未来のコミュニティをどのように描くかのイメージを持ってバックキャスト的に考えることが必要であると学ぶ。この教材から学んだ視点を生かして、まちづくりに関わる住民の一員としての当事者意識を持って、この題材について考えさせたい。二つ目の生活科、社会科との連携については、児童は「私たちの願いを実現する政治」の学習において、人々が持っている様々な願いを実現したり社会の問題を解決したりして、誰もが暮らしやすい社会を作ること、政治の大切な働きであること、またその政治のあり方を最終的に決定するのは自分たち一人ひとりであると学ぶ。また、児童はこれまで生活科や社会科における地域学習で、自分たちの住む地域について様々な学習をしてきている。これらの学習を通して学んだことを生かして、本単元の学習に取り組ませたい。

## (4) ESD の視点

### 【持続可能な社会づくりの構成概念】

構成概念 I 多様性・・・地域に暮らす様々な人々が、住みやすい、住み続けられるまちづくりについてそれぞれが多様な考えを持っていること。

構成概念 V 連携性・・・誰もが住みやすい、住み続けられるまちづくりには、様々な主体が連携して取り組む必要があること。

構成概念 VI 責任性・・・地域に暮らす住民の一員として当事者意識を持って、誰もが住みやすい、住み続けられるまちづくりについて考えること。

【重視する能力・態度】

能力・態度② 未来像を予測して計画を立てる力

自分たちの暮らすまちの未来像を思い描き、誰もが住みやすいまちづくりについて考えることができる。《未来》

能力・態度③ 多面的、総合的に考える力

自分たちの住むまちの良さや課題について、地域に暮らす人々の様々な立場から考えることができる。《多面》

能力・態度④ コミュニケーションを行う力

自分たちで考えた誰もが住みやすい、住み続けられるまちづくりについて、積極的に発信することができる。《伝達》

【持続可能な開発目標 (SDGs)】

目標 11「包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」



|      |  |
|------|--|
| 11.1 | 2030 年までに、すべての人々の、適切、安全かつ安価な住宅及び基本的サービスへのアクセスを確保し、スラムを改善する。<br>→キーワード① <b>安全</b>   |
| 11.2 | 2030 年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子ども、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、すべての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。<br>→キーワード② <b>交通機関</b> |
| 11.3 | 2030 年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。  |
| 11.4 | 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。<br>→キーワード③ <b>遺産の保護</b>   |
| 11.5 | 2030 年までに、貧困層及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点をあてながら、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。<br>→キーワード④ <b>災害</b>                                 |
| 11.6 | 2030 年までに、大気質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。<br>→キーワード⑤ <b>環境</b>  |
| 11.7 | 2030 年までに、女性、子ども、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。<br>→キーワード⑥ <b>緑地・公共スペース</b>   |

#### 4. 評価規準

| ア、知識・技能  | イ、思考・判断・表現   | ウ、主体的に取り組む態度   |
|--|--|--|
| <p>①地域にどのような施設があるのか、また欲しいのか、さらにその地域の良さなどについて、簡単な語句や基本的な表現で書かれた英語を理解できる。</p> <p>②地域にある施設や地域の良さなどについて、英語で聞いたり言ったりすることができる。</p> | <p>①誰もが暮らしやすい、誰もが住み続けられるまちについて考える。</p> <p>②理想のまちについて、英語で書かれた例を参考に簡単な語句や基本的な表現を用いて書いたりする。</p> | <p>①誰もが住みやすい、住み続けられるまちの視点で地域を見たり、自分の意見を持って積極的に話し合ったりしようとする。</p> <p>②自分たちで考えた誰もが暮らしやすい、誰もが住み続けられるまちについて、積極的に英語で伝えようとする。</p> |

#### 5. 単元展開の概要（全14時間 うち5時間は総合）

| 次       | 時 | 主な学習活動  | 学習への支援  | 評価 |
|---------|---|---|---|----|
| 1       | ① | <p>○様々な地域の説明を英語で聞き、理解する。</p> <p>・音声を聞き、その地域にどんな施設がある・ないを表す We have ～./ We don't have ～.という表現を学ぶ。<br/>(Let's Listen 1)</p>             | <p>・様々な地域の説明を聞くことで、地域の多様性に気付かせる。</p> <p>・文房具を題材とした既習の I have ～.という表現の仕方と関連させて、豊富な例を与えて表現を習得させる。</p> | ア① |
|         | ② | <p>・音声を聞き、地域にあるいろいろな施設の表現を学ぶ。<br/>(Let's Listen 2)</p>  | <p>・施設の言い方を何度も聞いたり行ったりして、理解を深めさせる。</p>  | ア② |
|         | ③ | <p>・音声を聞き、地域にあるものとその良いところについて聞き、理解する。<br/>(Let's Listen 3)</p> <p>・音声を聞き、それぞれの地域にあるものとほしいものについて考える。<br/>(Let's Watch and Think 1)</p> | <p>・その施設があるおかげでどのようなよさがあるかを We can ～.で表現できることに気付かせる。</p> <p>・ほしい施設を I want ～.で表現できることに気付かせる。</p>    | ア② |
| 2<br>総合 | ④ | <p>○「誰もが暮らしやすい」「誰もが住み続けられる」まちについて考える。</p>   |   | イ① |

|         |        |  |  |          |
|---------|--------|--|--|----------|
|         |        | <p>○「誰もが暮らしやすい」「誰もが住み続けられる」まちについて出た意見をグループ分けして整理する。その際、SDGs 目標 11「住み続けられるまちづくりを」において示されているまちづくりに関する 6 つのキーワードを参考にする。<br/>(6 つのキーワード以外の意見が出れば、新たなグループを設定する。)</p> <p><b>【キーワード一覧】</b> (ターゲット)</p> <p>①安全 (11.1)<br/>②交通機関 (11.2)<br/>③遺産の保護 (11.4)<br/>④災害 (11.5)<br/>⑤環境 (11.6)<br/>⑥緑地・公共スペース (11.7)</p> | <p>・より良い社会を作るために世界各国が合意して取り組んでいる世界共通の目標「SDGs」があり、その中でまちづくりについての目標が設定されていることを伝え、まちづくりの視点となる 6 つのキーワードを提示する。<br/>(11.3 は割愛。)</p>                                       |          |
|         | ⑤<br>⑥ | <p>○自分たちの校区を歩き、その特徴を調べる。</p> <p>・どんな施設があり、ないのかを調べ、ワークシートに書き込む。</p>   | <p>・国語科「町の幸福論ーコミュニティデザインを考えるー」、社会科「私たちの願いをかなえる政治」、これまでの生活科、社会科の学習における地域学習で学んだことを振り返り、活用させる。</p> <p>・校区を歩く際に、SDGs 目標 11 に示されているまちづくりに関するキーワード 6 つ (+α) の視点を意識させる。</p> | ウ①       |
| 3       | ⑦      | <p>○実際に校区を歩いて気付いたこと、調べたことを英語で報告しあう。</p> <p>・第①～③時で学習した表現を用いて、気付いたこと、調べたことをまとめる。</p> <p>・グループ内で発表しあう。</p>   | <p>・第①～③時で学習した表現を復習し、それらを活用するように促す。</p>  | イ②<br>ウ① |
| 4<br>総合 | ⑧<br>⑨ | <p><b>「誰もが暮らしやすい」「誰もが住み続けられる」まちづくりを考えよう</b></p>  |  |          |
|         |        | <p>○自分たちの住むまちの良さや理想のまちについて考える。</p>   | <p>・まちの良さや理想のまちを考える際に、SDGs 目標 11 で示されている「誰もが</p>   | ウ①       |

|   |        |   |  |    |
|---|--------|---|--|----|
|   |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs 目標 11 に示されているまちづくりに関するキーワード6つ (+α) の視点から関心のあるものを選び、グループに分かれる。</li> <li>・実際に校区を歩いて気付いたことや調べたことをもとにして、選んだ視点から自分たちの校区の良さや課題について考え、ワークシートにまとめる。</li> <li>・「誰もが暮らしやすい」「誰もが住み続けられる」ためにはどんなまちになればよいかを考え、ワークシートにまとめる。</li> </ul> | 暮らしやすい」「誰もが住み続けられる」という視点を意識させる。  |    |
| 5 | ⑩<br>⑪ | ○まちの良さや理想のまちについて英語で表現する。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第①～③時で学習した表現を復習し、それらを活用するように促す。</li> </ul> | イ② |
|   | ⑫      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで考えた自分たちのまちの良さや課題、理想のまちについて、既習の表現を用いて英語でまとめる、ポスターを作る。</li> <li>・作成したポスターを使って、発表練習をする。</li> </ul>  |  | ウ② |
| 6 | ⑬<br>⑭ | ○作成したポスターを使って、まちの良さや理想の町についての発表会を行う。  |  | ウ② |